● 福島民報　　2011年8月12日

土壌の放射性物質除去実験　川俣

県建設業協　新開発凝集剤を使用

汚水に凝集剤を入れてかき混ぜ、放射性物質を分離させる関係者

県建設業協会は十一日、川俣町の富田小で土壌から放射性物質を取り除く実証実験を行った。秋田県横手市のクマケン工業と金沢大の太田富久教授が共同開発した「スーパーソリウェルパウダー（SSP）」というセシウムなどの凝集剤を使用。放射性物質を除去した後の土を再利用できるのが特徴で、汚染土を減らすメリットがある。

県北地方を中心に会員の約五十社が参加。放射線量が毎時二・七マイクロシーベルトの校庭の土を作業用ミキサーで洗浄し、取り出した土は空気中と同じ約〇・四マイクロシーベルトに下がった。残った洗浄廃液にSSPを入れかき混ぜると、放射性物質が吸着した汚泥と水に分離し、脱水して汚泥だけを取り出すと約五・二マイクロシーベルトだった。

クマケン工業によると、今回の実験では洗浄で土から放射性物質が取り除かれ、約75％が再利用できるようになったという。また同社の担当者は小学校の校庭程度の表土を除去し、除染処理するのに必要な時間は一～二週間程度としている。